章毛通信



ハンカイソウ

平成 29 年 7 月 7 日 豊橋市文化財センター 豊橋市松葉町 3 丁目 1 III: 0532-56-6060

No. 53

1、2017モニタリング報告-2

今年は1月から雨が少なく葦毛湿原は乾燥しています。梅雨入りしてもほとんど雨が降らず、近年まれに見る大渇水です。また2・3月は低温が続き、天候不良の年のようです。6月21日に久しぶりにまとまった雨が降りましたが、まだ十分ではありません。7月4日には台風3号が東海地方を通過しましたが、やはり十分な雨は降らず、このまま梅雨が明けてしまいそうです。

V地点(三の沢)

三の沢は昨年重機で抜根を 行いました。一部でミカワバ イケイソウが発芽しましたが、 全体的には乾燥していて植物 の発芽・成長が悪いようです。 昨年見られた三の沢の中流部 近くまで続く水の流れが上流 で止まってしまい、中流部ま で流れてきません。上流部(右 写真上) は国有林から流れ込 んでくる水がすぐに地中に潜 ってしまいます。上写真右側 にやや黒くなっているところ がありますが、昨年はこの部 分に水の流れが見えました。 今は湿っている程度です。

中流部(右写真下)は全体が乾燥して白くなってチャートの礫が目立っています。昨年は選択的に残した写真中央にあるシラキ等の左側に水の流れが見えましたが、今年は全く見られません。それでも、地下に水があり湿ったところではミズギボウシがいくつか発芽しています。

春に開花する植物にとって は今年の天候不順が大きく影 響し、発芽・生長が悪いようです。



三の沢上流部(2017年6月20日)



三の沢中流部(2017年6月20日)

三の沢中流部に設定した実験区のV-1地点では、昨年はミカワバイケイソウが発芽しました(葦毛通信 No. $34 \cdot 35 \cdot 43$)が、今年は発芽しませんでした。水分が少なかったのか、あるいはバックホーで抜根した際の影響なのかは分かりません。

昨年はシラタマホシクサが 三の沢の水の流れ沿いに点々 と 16 個体が単独で発芽しまし た。今年は水の流れ沿いの湿っ たところで小さな群落が3カ 所現れ、密集して発芽しました (右写真上中央)。単独で発芽 している個体もあちこちに目 立つようになっています。個体 数は顕著に増えて6月22日で 278 個体でした。昨年は単独で 発芽したものばかりでしたが、 今年は密集して発芽したため 個体数が大幅に増えています。 あるいは、昨年結実した種子が 固まって散布されて一斉に発 芽したのかもしれません。

これからまだ発芽してくる 個体もあると思われますので、 個体数は昨年の 20 倍以上にな ると予想しています。

また、7月5日にはシラタマホシクサの開花を確認しました。昨年は7月末の開花なので、今年はかなり早くなっています。他の地点ではまだ蕾も見られませんので、V地点だけが異例に早くなっています。

他の地点でも、作業後3年目でシラタマホシクサが顕著に増えているので、昨年抜根した三の沢でも、2~3年後にはシラタマホシクサが水の流れ沿いに天の川のようになって復活してくるものと予想しています。



シラタマホシクサ群落(2017年6月22日)



シラタマホシクサ群落拡大(2017年6月22日)



シラタマホシクサ開花状況(2017年7月5日)

2、ヒメヒカゲ

今年も6月に入りヒメヒカゲが羽化し始めました。例年7月中旬頃には成虫は見られなくなります。ヒメヒカゲは卵を産んで子孫を残すために成虫になり、短期間で産卵して死んでいくはかない蝶です。飛ぶのが苦手なようで、ヌマガヤやイヌノハナヒゲの間をヨロコと飛んでいます。飛ぶのも遅く、飛ぶ距離も短く、遠くまで移動しません。

今から 40 年程前、葦毛湿原が森林化する前は草地が広がり、ヒメヒカゲにとって良好な棲息環境が広がっていたと思われます。個体数も多かったと言われていますが、現在は森林化が進んで草地が少なくなり、生息数が激減して一時は絶滅したのではないかと心配されていました。現在もまだ生息数は少なく、



ヒメヒカゲ♀(2017年6月22日)

かつて多くの個体が乱舞していたような状態には戻っていません。

しかし、大規模植生回復作業を進め、食草であるイヌノハナヒゲが増えたところに分布 を広げていることは確認しています。今後、森だったところが良好な湿地に戻り、食草が 増えてくれば、ヒメヒカゲの個体数も回復してくると予想しています。

ヒメヒカゲは、かつて葦毛湿原が良好な状態だった頃を象徴する存在です。ヒメヒカゲが良好な状態で棲息していける環境が、湿地としても良好な状態を保つことになると思います。ヒメヒカゲは葦毛湿原で生態系の頂点に立っているわけではありませんが、ヒメヒカゲを守ることで湿原を良好な状態に保つことができるとすれば、ヒメヒカゲは葦毛湿原を代表する生物種とすることができると思います。

3、第2回葦毛湿原再生フォーラム

「日本固有種ナガバノイシモチソウの実体と保護」

題名:第2回葦毛湿原再生フォーラム「日本固有種ナガバノイシモチソウの実体と保護」

とき: 7月29日(土)開会14時00分~16 時30分(開場13時30分)

ところ: 豊橋市民センター カリオンビル6階多目的ホール (松葉町2丁目63)

講師:渡邊幹男(愛知教育大学教授、植物分類学)

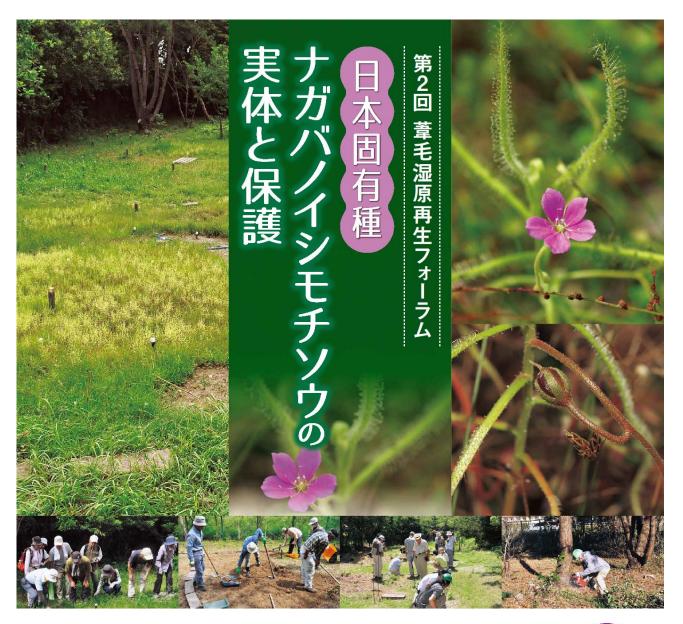
演題:「ナガバノイシモチソウは日本でどのように進化したか?」

定員:99名(当日先着順)参加料:無料

最新の研究成果をご講演いただきます。

問合せ: 豊橋市文化財センター (**2**0532・56・6060)

豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」でも、葦毛湿原と同じ方法で2013年4月から大規模植生回復作業を進めています。作業後、毎年前年の約2倍に個体数が増え、基準としている平成23年の300個体が、平成28年には4,662個体まで増えました。ナガバノイシモチソウ(長葉石持草)は、熱帯起源のモウセンゴケ科の食虫植物です。赤花と白花がありますが、近年別種であることが確認されました。これまで行った大規模植生回復作業を説明するとともに、ナガバノイシモチソウの専門家である渡邊幹男先生に







渡邊幹男

豊橋市民センター カリオンビル 6階多目的ホール 〒440-0897 愛知県豊橋市松葉町二丁目63

●プログラム

13:30	開場
14:00~14:30	「ナガバンイシモチソウの大規模植生回復作業について」 豊橋市文化財センター●贄 元洋
14:30~14:40	休憩
14:40~16:10	「ナガバノイシモチソウは日本でどのように進化したか?」 愛知教育大学教授 ● 渡邉幹男
16:10~16:30	意見交換·質問

